

朝の準備

Wedge White

「ううつ……今日もすぐ張つちやつてる……」

朝起きてすぐに、私はパジャマを脱いで裸になつてしまつた。

理由は、胸がすごく疼くから……。

「はつ、ああつ、あああつ……!!」

そして、痛いほどに張つたおっぱいと、その先端にある乳首を思い切りきゅうつ、て搾ると、四方八方にミルクが飛び散つていく。

「ふつ、あああつ……！やつぱりこれ、すごいいいつ……!!」

母乳を噴き出すほどに、体全体が気持ちよくなつて……アソコもぐしょぐしょになつてしまふ。

部屋は甘い匂いに包まれて、頭がぼーつとしてきて……ミルクを搾るのに夢中になる。

「ダメ、なのにつ……！こんなエツチなのつ……でも、でもおつ……！ひやああああああつ……！」噴き出すおっぱいが止まらない。手どころか、体中がびしょびしょになつて、自分がどんどんエツチになつていくのがわかる……。

きつとこんなこと、まだ私ぐらいの歳の子はしてない……それも、おっぱいを搾つて感じるなんて、変態過ぎる。

その自覚はあるのに、この気持ちよさを知つて、それに、生活に支障が出るほどにおっぱいが張つてゐんだから、仕方がない……。

「あつ、あう、あああつ……!!ぜ、全部つ、全部師匠のせいなんだからあつ！私、悪くないいいつ……!!」

そう、私のせいじやない。だから、いいんだ……思いつきり感じても、師匠が悪いんだからつ……。

「おつ、おつ、おふうううううつ!!イツひやう！おっぱい、イツ、くううううううううつ!!」

一際激しく、おっぱいが溢れ出して……それと同時にアソコも決壊して、私は上からも下からもエツチなおつゆを垂れ流して激しくイツてしまつた。

毎朝、毎朝、私はこんなことをしている……。イケナイこととわかりつつ、もう私はこの習慣をやめることができなくなつていて。
それにつ……。

「え、へへつ……：昨日よりも気持ちよかつたあつ……」

少しずつ毎日開発されていつて、おっぱいの感度がすごく高くなつていつてる……。
おっぱいをいじるとアソコもイケちゃうから、アソコを触る必要なんてない。今はクリより

も乳首が感じるし、本当は感じないはずの乳房を揉むだけでも、頭がイツちやう……。
もしも治安の悪い世界に行つてしまつたらきつと私、悪い人に襲われて、一生オモチャにされちやう……。

そんなことを考えるとゾクゾクしたいけない気持ちになつて、また、おっぱいが止まらない。
「そろそろお仕事の準備始めないと……んつ、でもつ……」

おっぱいをいじる手が止まらない。

「もうちよつとぐらい、いいよね……後、ちよつとだけ……」
だつてこれも、お仕事の準備なんだもん。

朝の準備

2021年 9月26日 初版

奥 付

著者 Wedge White
URL <https://wedgewhite.com>
E-Mail konjyoyasuhiro@gmail.com

本書の無断複製、複写、転載を禁止します。

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

(<http://tokimi.sylphid.jp/>)